なかはら 歴史と緑の散策マップ

春先の多摩川を光りながら波上する鮎がいいよね
二ヶ領用水の住吉・今井の桜並木は格別だね
中原街道の歴史の風深さかな
中丸子緑道の四季折々に咲く花が怜しみよね
江川のせせらぎは毎日でも歩きたいよね
そうそう、暑い時期に一面に咲くバンジーも
すばらしくきれいだね
それって全部、なかはらにあるんじゃない？

第1回なかはらフォトコンテスト優秀作品

歴史・自然・文化そして人のいとなみ
今まで通り過ぎていたあの場所に
気付かなかった中原区の魅力が隠れている

1 歴史の道探訪 中原街道コース

全長 4.2km 時間 52分

JR武蔵中原駅 →(243m 4分)→ 石塔群 →(450m 6分)→ 旧中原村役場跡 →(140m 2分)→ 泉澤寺 →(50m 1分)→ 二ヶ領用水 →(110m 2分)→ 小杉十字路 →(110m 2分)→ 油屋の庚申塔 →(220m 3分)→ つげ櫛屋の供養塔 →(90m 1分)→ カギの道 →(180m 2分)→ 西明寺 →(250m 3分)→ 御主殿稲荷 →(480m 6分)→ 石橋総本家(原家)陣屋門 →(30m 1分)→ 名主家長屋門 →(320m 4分)→ 中原街道 →(180m 2分)→ 松原・青木根集落 →(140m 2分)→ 丸子の渡し →(980m 12分)→ 東急新丸子駅

江戸と平塚の中原を結ぶ道は中原街道と呼ばれました。また相模を通るので「相州街道」、平塚で造られた酢が江戸城へ運ばれたので「お酢街道」などとも呼ばれました。やがて東海道が整備され、大名行列が東海道を通るようになると、中原街道は脇往還となり、以前の賑わいを失っていきました。しかし中原街道は沿線の物資や農作物の輸送などに欠かせない大切な道として、その後も人々の生活に深い関わりを持ち続けてきました。今も街道沿いには旧家や古くからの地名、商家、石仏、石碑などが残り、街道沿いで織り成されてきた歴史を偲ぶことができます。（川崎歴史ガイドより）

コースの説明

丸子の渡しと松原・青木根集落(MAP E,F-2)

中原街道を通る人々にとって、昭和10年に丸子橋が完成するまでは渡しが川を渡る唯一の交通機関でした。数多くあった多摩川の渡しの一つでした。渡し場の近くに松原・青木根集落がありましたが大正9年の築堤で姿を消しました。

丸子の渡しの再現イベント

西明寺(MAP D-2)

籠宿山西明寺は、有馬にあったものが室町時代の始めに現在の場所に移されたと伝えられています。中興の祖北条時頼にまつわる伝説があり、これにちなむ弁才天が出世弁天として境内に祭られています。小杉学舎はここの本堂を借りて始められています。

西明寺

泉澤寺(MAP D-3)

浄土宗泉澤寺は、領主吉良氏の菩提寺として世田谷の烏山にあったものが焼失したため、室町時代末に中原の現在地に再建されました。吉良氏は税を免除して居住を促し、門前市を開いてこの地の繁栄を図りました。

泉澤寺

小杉御殿

小杉御殿(MAP D-2)

家康が平塚の中原に建てた中原御殿に倣い、二代将軍秀忠が建てた小杉御殿は、家康、秀忠、家光公の送迎や鷹狩の際の休憩や宿泊などに使われました。後に東海道が主街道になると廃止されました。御殿はおよそ1万2千坪(4万平方メートル)の広さに及び、表御門・御主殿・御殿番屋敷・御蔵・御馬屋敷・裏御門などが建ち並んでいました。

カギの道(MAP D-2)

当時のカギ型の道筋は御殿の防衛の重要な役目を果たすもので、現在もその形を残しています。

神地の石塔(MAP C-3)

旧中原村役場跡前の街道の西側には祠が多く見られます。庚申塔・地蔵尊・水天宮などがあり、供物や献花が絶えません。門前市が栄え豊かで平和な暮らしがあった往時の民衆の信仰が、今も脈々と続いている証です。

地蔵尊

2 水辺と緑の散策 二ヶ領用水・渋川コース

全長 5.8km 時間 75分(二ヶ領用水コース)
全長 7.1km 時間 91分(渋川コース)

JR武蔵新城駅 →(110m 2分)→ 竹橋 →(110m 2分)→ 大ケ谷戸橋 →(730m 9分)→ 上家内橋 →(400m 5分)→ 薬師橋 →(370m 5分)→ 白田橋 →(180m 2分)→ 神地橋 →(430m 5分)→ 松尾橋 →(430m 5分)→ 山王橋 →(250m 3分)→ 今井上橋 →(80m 1分)→ 小杉一号橋 →(80m 1分)→ 今市橋 →(180m 2分)→ 今井橋 →(360m 4分)→ 和合橋 →(360m 4分)→ 平和公園 →(360m 4分)→ 関東労災前 →(360m 4分)→ 住吉神社 →(360m 4分)→ 東急元住吉駅

上段：二ヶ領用水コース

JR武蔵新城駅 →(650m 8分)→ ガス橋 →(2740m 34分)→ 丸子橋 →(680m 8分)→ 調布取水堰 →(1600m 20分)→ 等々力魚濫川ととどろき水辺の楽校 →(330m 4分)→ 等々力緑地入口 →(370m 5分)→ 市民ミュージアム →(420m 5分)→ 等々力緑地 →(430m 5分)→ 等々力グラウンド入口

下段：渋川コース

多摩川緑地周辺ののどかな自然景観を楽しむ一方で、かつてのあばれ多摩川の足跡も見られ、多摩川という自然環境の両極面を偲ぶことができます。コース沿いには歴史、文化遺産も数多くあります。

コースの説明

酔芙蓉

豊かな緑と水の散歩道、二ヶ領用水は、春には川沿いに桃の花が美しく咲き始め、満開の住吉桜が水面を染める頃には多くの人がその風情を楽しみに訪れます。かるがもの里としても知られ、ザリガニやアメンボ、大きな鯉も遊ぶ、憩いの散策コースです。

コースの説明

二ヶ領用水(MAP B-1～F-6)

徳川家康から治水と新田開発の命を受けた小泉次大夫が、14年をかけ慶長16(1611)年に農業用水として開削した県下で最も古い人工用水です。総延長32キロにわたる二ヶ領の名は、川崎領と稲毛領にまたがっていたことに由来します。

二ヶ領用水

二ヶ領用水の桜

渋川(MAP D-3～E-6)

渋川は川崎堀から分流する2.4キロの用水路です。川沿いには約250本の桜並木が続き、「住吉桜」として親しまれています。江戸時代末期には、いくつかの水車が廻り、精米・製粉などが行われていました。

渋川

今井上町緑道(MAP D-3)

今井上町緑道は、桜のシーズンはとても気持ちの良い散策路です。松尾橋から山王橋までは緑道の下段に二ヶ領用水の流れに沿って遊歩道が整備され、ベンチもあって親水ゾーンとなっています。笹舟などを浮かべながらそぞろ歩いてみてはいかがですか。

県住吉小学校跡
二ヶ領用水沿いのたちあおい

平和公園(MAP E-5)

平和の春り漂うこの公園は、米軍出版センター跡地が全面返還されたのを機に恒久の平和を願って整備された公園であり、平和記念像、川崎市平和館、野外音楽堂などがあります。桜の名所として大勢の人が花見に訪れ、夏には流れる水の広場で子供たちが遊び、また、1年を通して区民のみなさんがジョギングなどを楽しんでいます。

平和公園

3 多摩川散策と等々力緑地コース

全長 6.6km 時間 84分

JR平間駅 →(650m 8分)→ ガス橋 →(2740m 34分)→ 丸子橋 →(680m 8分)→ 調布取水堰 →(1600m 20分)→ 等々力魚濫川ととどろき水辺の楽校 →(330m 4分)→ 等々力緑地入口 →(370m 5分)→ 市民ミュージアム →(420m 5分)→ 等々力緑地 →(430m 5分)→ 等々力グラウンド入口

多摩川(MAP C-1～H-6)

山梨県笠取山に源を発する多摩川は、川崎市市域では流路延長138kmのうち約31kmを占めています。その中で中原区に接する流域は約6kmあります。多摩川の水と緑は川崎市の自然、産業、歴史、文化に深い係わりを持ち、まさに川崎市の「母なる川」と言えます。かつては氾濫を繰り返した歴史をもち、川筋は蛇行し、人々の生活を脅かす暴れ川でした。川の両側の東京都と川崎市（中原区）には同じ地名である、等々力、沼部、丸子が残っています。現在河川敷は広域避難場所に指定されており、公園緑地、サイクリングコース、運動施設等に利用され、区民に身近な自然環境空間として憩いの場となっています。こうして地域とともに発展してきた多摩川を重視し、地域の財産としてまちづくりに活かしていこうという機運が高まっています。

多摩川

緑地2

等々力緑地(MAP D-2)

43万5914平方メートルの広さと豊かな緑に覆われた、中原区が誇る公園です。敷地の大部分が多摩川の旧河川敷に位置します。園内にはサッカーJリーグ川崎フロンターレのホーム地としてある等々力陸上競技場、県内最大級の規模を誇る等々力球場、バスケットボールBリーグ川崎ブレイブサンダースのホームアリーナでもあるとどろきアリーナ等の運動施設があります。また、市民ミュージアムやふるさとの森、花の散歩道、フィッシングコーナー等があります。

野球場

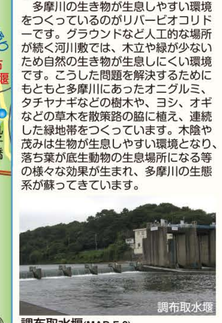
等々力魚濫(ぎょらん)川ととどろき水辺の楽校(MAP D-2)

等々力緑地先の河川敷内水川から分流している小さな水路が魚濫川です。今ではここで魚類等の生息繁殖が見られるまでに自然環境が復元しています。水辺の楽校はこの魚濫川と周辺の中州をフィールドに、生態系の自然を観察し体験することができる川の楽校で、川遊びなどの行事が毎月開催されています。

とどろき水辺の楽校

リバービオコリドー(河川敷生態系回廊)(MAP F-2)

多摩川の生き物が生息しやすい環境をつくっているものがリバービオコリドーです。グラウンドなど人工的な場所が続く河川敷では、木立や緑が少ないため自然の生き物が生息しにくい環境です。こうした問題を解決するために、もともと多摩川にあったオニグルミ、タチヤナギなどの樹木や、ヨシ、オギなどの草本を散策路の脇に植え、連続した緑地帯をつくっています。木陰や茂みは生物が生息しやすい環境となり、落ち葉が底生動物の生息場所になる等の様々な効果が生まれ、多摩川の生態系が蘇ってきています。


調布取水堰

調布取水堰(MAP F-2)

堰は水を飲料、工業用などに利用したり、氾濫を未然に防ぐために水をせき止める施設です。多摩川に9つある堰のうち最も下流に位置しています。防潮堰の役割も果たし、魚道も設置されています。春先にはアユが大量に水しぶきを上げて遡上する姿が見られるまでになりました。

中原区の概要

プロフィール

中原区は川崎市のほぼ中央に位置し、その名称は、江戸時代に中原御殿（平塚市）と江戸を結ぶ中原街道の中継地としての仮御殿が小杉にあったことに由来しています。武蔵小杉駅を中心に先端企業が集積する一方、下小田中地区は県下でも有数の品質を誇るパンジーの生産で知られています。また、等々力緑地には、市民ミュージアムやとどろきアリーナ、釣り池などの文化スポーツ施設が揃い、市民の憩いの場となっています。武蔵小杉駅周辺では再開発による新しいまちづくりを推進しており、区では、水と緑の自然を活かした暮らしやすく潤いのあるまちづくりを進めています。

中原区の位置図

人口・世帯数 面積

134,636世帯　人口：263,760（男：134,253　女：129,507）
14.81平方キロメートル（令和2年9月1日現在）

シンボルマーク

区制20周年の記念に制定
「中」の字をベースに心のふれあうまちを願い、人と産業、人と文化、さらに伝統文化と最先端技術の調和を表現しています。また中央の丸は、中原区が市の地理的中心であることを表し、上下に伸びる線軸は未来に発展する中原区の姿を象徴しています。

区のシンボルマーク

区の木 モモ

平成27年に市制90周年を記念して、区民のみなさんの投票により制定しました。中原区は大正から昭和にかけて全国でも有数の桃の生産地でした。

区の木 モモ

区の花 パンジー

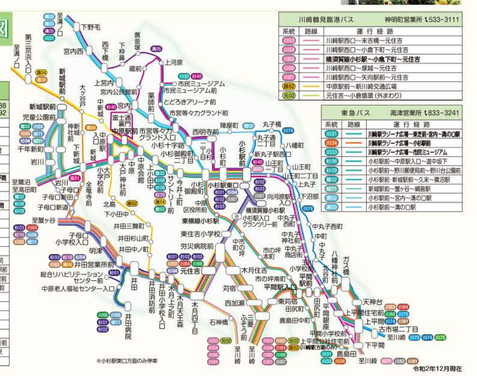
中原区では平成10年に区制25年を記念して、区民のみなさんの投票により「パンジー」を区の花に制定しました。県内でも有数の生産量を誇る下小田中地区のパンジーは、品質面で高い評価を受けており、かながわブランドやかわさき農産物ブランドの「かわさきそだち」にも認定されています。同地区の生産農家では、11月から12月にかけて直接地面を掘って花を摘む「地堀り」という体験型直売を行うところもあります。

区の花 パンジー

パンジーの花回廊づくり

平成14年11月に発行された都市計画マスタープラン中原区構想区民提案では、20年後の中原区のあるべき都市像や都市づくりの方針が区民によって提案されました。その中に「パンジーの花回廊づくり」が挙げられており、「住んで良かった町・中原」を目指し、パンジー農家は勿論のこと多くの団体と協力し、パンジーを中心とした四季折々の花で年間を通して通勤・通学路の花回廊づくりを進めています。パンジーの植栽を通して街角景観づくりや遊休地の緑化、ガーデニング運動を推進しています。

中原区内バス路線図


新城駅
JR武蔵新城駅
第三京浜入口
下野毛
宮内西
宮内
西丸子橋
上丸子
上丸子八幡
上丸子山王
上丸子天神
武蔵小杉駅
JR武蔵中原駅
JR南武線
JR横須賀線
東急東横線
目黒線
東急目黒線
JR東海道新幹線
JR横浜線
JR南武支線
JR横須賀線
JR南武